

[成果情報名]新たに登録される中晩生カンキツ「津之望」の果実特性

[要約]新たに登録される中晩生カンキツ「津之望」は果皮が比較的滑らかで浮皮はほとんどない。不完全種子が混入しやすいものの果肉は柔らかく芳香を持つ。露地栽培では、12月に糖度12以上となり、減酸が早く12～1月に可食期となる食味のよい品種である。

[キーワード]カンキツ、津之望、不完全種子、芳香、減酸

[担当]農林技術開発センター・果樹研究部門・カンキツ研究室

[連絡先]（代表）0957-55-8740

[区分]果樹

[分類]指導

[背景・ねらい]

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所で育成され、12～1月の出荷が期待される中晩生カンキツの新品種「津之望」の果実形質を調査し、本県への適応性を明らかにする。

「津之望」の来歴

品 種 名	交配組み合わせ		
	♀	×	♂
津之望	清見		アンコール

[成果の内容・特徴]

1. 果実重は140～180gで、果形指数 120～130程度の扁球形である（表1、写真2）。
2. 果皮は比較的滑らかで浮皮もほとんど生じない（表2、写真1、写真2）。
3. じょうのう膜は中～やや薄く、果肉は柔らかく多汁でアンコールに似た香りがある（表2）。
4. 糖度は、12月下旬で12、1月下旬で13～14となり食味に優れている。減酸は早く年内収穫が可能である（表1）。
5. 種子は、不完全種子（しいな）の混入が多い（表1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 樹勢は中程度、1～2cm程度の長さのトゲが発生する。隔年結果性は比較的小さく、連年結果するが、着果量が多いと果実はやや小さくなりやすいため、適正着果に努める。
2. 12月～1月に出荷できる中晩生のカンキツで、種子の混入があるものの豊産性で栽培が容易であることから、早生ミカンと組み合わせた作型が可能である。
3. 本品種は、2010年7月12日に出願され、2010年9月15日に公表されている。

[具体的データ]

表1 「津之望」の露地栽培での果実特性（1）

年度	調査 月日	果形 指数	果実重 (g)	果皮色 <sup>z</sup>	果皮厚 (mm)	果肉 歩合 (%)	果肉色 <sup>z</sup>	含核程度 <sup>y</sup>		糖度 (brix)	酸含量 (g/100ml)
								完全 種子	不完全 種子		
2006	12.20	129	140	6.3	2.0	82.8	9.0	1.4	-	12.7	1.05
	1.18	124	135	7.4	2.1	81.7	9.5	2.1	-	14.8	0.91
2007	12.20	131	160	7.3	1.8	84.6	8.0	0.6	1.8	12.7	1.03
	1.16	130	166	8.1	2.0	84.3	9.0	0.4	2.6	13.8	1.43
2008	12.19	127	166	6.8	1.9	83.7	8.5	1.2	3.0	10.8	0.98
	1.16	126	178	7.8	2.5	81.9	9.0	1.0	2.6	12.4	0.65

<sup>z</sup> 果皮色、果肉色はオレンジ色系カラーチャートの値

<sup>y</sup> 種子数を階級で調査 0:無種子 1:5粒以下 2:5～10粒 3:10粒以上

表2 「津之望」の露地栽培での果実特性（2）

色	果 皮			じょうのう		肉質	香り
	粗滑	剥皮難易	浮き皮	分離難易	厚さ		
橙	滑	やや易	無	易	やや薄～中	軟	中



写真1 「津之望」の着果状態



写真2 「津之望」の果実断面

[その他]

研究課題名：機能性に富む有望中晩生カンキツの高品質果安定生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2006～2008年度

研究担当者：古川忠、林田誠剛